

的サポートネットワーク、同僚は交際サポートネットワーク、ボスは道具的サポートネットワークにおいても重要な存在となっている。全体的には、建築業農民工ネットワークの同質性は高い。特に、性別、出身地、婚姻状態、政治身分における同質性が高くなっている。一方、年齢、学歴、職業と収入の同質性は若干低い。どのタイプのネットワークにおいても、構成員との関係が「特に親しい」および「親しい」という回答が8割を越え、農民工はネットワークの構成員との関係が強いと言える。ネットワークの密度について見ると、交際サポートネットワークの構成員同士は、互いに知り合っている人が最も多く、情緒的サポートネットワークでは互いに知り合っている構成員が最も少ない。どのタイプのネットワークでも、構成員同士が相互に知り合っている確率は高く、ネットワークの密度も高い。

建築業農民工のネットワーク形成は、世代により多少の違いが見られる。新世代の農民工は情緒的サポートネットワークにおける同級生の割合が、明らかに他の世代より多い。それは新世代農民工は同級生との関係を重視する証であろう。また、新世代の農民工のどのネットワークにおいても、家族・親族が占める割合は他の世代より高い。それは新世代の行動様式と価値観と関連性があるというより、新世代の年齢と関係があるといえる。上の世代の農民工は結婚して、家族の大黒柱になり、出稼ぎ経歴も長いいためか、家族より同郷者に道具的サポートと交際サポートを求める。しかし、新世代農民工は出稼ぎ経験が浅く、経済的にも独立していないため、彼らが家族を頼りにするのは不思議ではない。

事例研究を通じ、家族や親戚、そして同郷者は、主要な情緒的サポートの提供者であると分かった。農民工が家族や仕事のことなどで悩みを抱えている場合や、落ち込んだとき、あるいは重要なことについて相談が必要となった場合には、家族や親戚、そして同郷者が、主な相談相手となる。病気にかかった場合や重い荷物を運ぶ場合など、日常生活の互助においては、同郷者と同僚が大きな存在となる。情緒的サポートとは異なり、道具的サポートでは、家族、親戚と同郷者、同僚のほかに、建築隊の管理者であるボスも主要な提供者となる。ほぼすべての農民工は、まとまったお金が必要な場合、ボスから借りると回答している。他方で、細かいお金が必要になった場合には、建築隊の同郷者や同僚から借りるとしている。給与の未払いや遅配のようなトラブルに遭った場合、農民工は同郷者から金銭的物質的な援助を得ることができる。給料トラブルに遭った場合、農民工の多くは同郷者と相談する形を取り、ボスとは交渉の形を取るのである。

農民工にとって、同郷者は重要な存在である。建築業農民工にとって建築隊の人間は、普段の付き合いの対象となり、娯楽を共にする相手でもある。日ごろ、一緒に飲酒をしたり、会話をする建築隊のメンバーは、現場で働く建築業農民工にとってかけがえのない存在である。中には、実の兄弟のような親しい絆を結ぶ農民工も少なくない。

建築業農民工のネットワークにおける上記のような特徴は、建築業農民工の労働と生活様式によって大きく影響されると考えられる。建築業農民工は血縁地縁関係に基づき組織される建築隊の中で、空間的にも時間的にも経済的にも束縛される状態で、集団生活と集団労働を送っている。このような環境にある建築業農民工は、他の世界の人間と接触する機会が少なく、そのネットワークは主として建築隊の人間によって構成されている。このため、一緒に働き、一緒に暮らす同郷者は、ネットワークにおいて重要な構成員となっている。長期間にわたって共に働き、共に暮らすことで、農民工はネットワークの構成員と緊密な関係を結ぶことになるので、ネットワークの同質性が高く、密度も高くなる。同質性の高いネットワークから、農民工は、より高い共感を得られる。その共感とは、都市で働く際に直面する困難や挫折、孤独感を和らげるものにもなる。このネットワークは、故郷から離れ、見知らぬ都市で働く農民工にとっては重要な存在となり、また欠かせないサポ

ートにもなっていると言えよう。

2. 包工頭の再発見

建築業農民工の移動、仕事探し、賃金配分などにおいて重要な存在となっているのは包工頭という人物である。包工頭は建築業農民工のボスである。本論文では両者の関係にも注目し、事例研究を通して考察した。

建築業農民工の給与トラブルにおいては、消極的な役割しか果たせない包工頭はいるものの、実際には積極的な姿勢を示す包工頭もいると明らかになった。また、農民工と包工頭の間には存在する同郷者関係は、双方にとってメリットがあるとわかった。同郷者関係の存在により、包工頭は建築隊の人員の調達に成功し、建築隊の技術レベルを確保できた。他方で、農民工は包工頭の身元に詳しいため、包工頭による給与の未払いや持ち逃げの可能性は少なくなると考えられる。つまり、包工頭との同郷者関係は、給料トラブルの発生リスクを下げる効果があると考えられる。

農民工と包工頭の同郷者関係はある程度、建築企業の工事費未払いによる被害を少なくすることができるものの、被害そのものを完全になくすことはできない。農民工を賃金未払いと遅配から守ろうとするならば、建築企業や労務企業による工事費の未払いと遅配を徹底的に取り締まらなくてはならないであろう。

3. 農民工のネットワークと社会保障

北京市建築業農民工に対して調査を行った結果、建築業農民工の個人のネットワークは農民工が困難に直面する際に積極的な役割を果たしていると明らかになった。農民工は同郷者や同僚、ボスから医療費を借りられる。労災事故に遭うと、ボスが面倒をみるを手配する。一見、農民工は社会保障というフォーマルなセーフティネットがなくても、大丈夫なように見える。しかし、筆者がインタビューで聞いたように、建築企業と労務企業が農民工の労災保険に加入する場合もあれば、包工頭が加入する場合もある。包工頭による賠償は、国家の規定する基準をはるかに下回るという。つまり、個人のネットワークは普段の生活において積極的な役割を果たしているものの、農民工の権利保障は個人のネットワークだけではカバーしきれないのである。

筆者がインタビューした建築業農民工の話では、現場で働く農民工は子供の学費、結婚資金など、家計を支えるために、現場で働き続けている。このような重荷がなくなると、ほとんどの調査対象者は実家に帰るといふ。建築業農民工の生活と労働環境から見れば、都市で働く際にもっとも必要とされるのは、養老保険と失業保険よりも、労災保険と医療保険であろう。労災保険や医療保険の欠如による困難は、農民工個人のネットワークの力では、カバーしきれない領域である。特に労災保険の加入は、建築業農民工にとって必要不可欠とも言えよう。

建築業界は、採鉱業界に次ぐ危険性の高い業界である。いかに労災保険の加入を促進するかは、現場で働く農民工の権利につながる課題である。すべての農民工に適用される農民工労災保険政策が必要である。しかしながら、そのような政策を形成する前に、「平安計画」のような、建設業界に限定した政策であるものの、確実に建築業農民工の権利を守る効果があれば、その実施を継続する意義もあるであろう。